

大阪信愛女学院短大 川端厚子

奈良女大家政 ○登倉尋実

目的 エスキモーの皮膚温は白人の皮膚温に比較して、同じ着衣、同じ室温で比較しても有意に高いという報告 (Remmie et al., 1962) がある。これらの差異が生じる原因の一つとして、日常生活のウェアの有様が関係する可能性について論じた (登倉, 1983)。今回は、中国の大連市に生活する中国人女性の、夜間睡眠中の皮膚温を測定する機会があり、対象として日本人女性のそれを同条件で測定し、比較した。被験者の中国人女性は年間を通して、四肢部はほぼ衣服で被覆されており、日本人女性の衣服着用状態と異っている。このような日常生活の着装状態の差異が皮膚温に影響するかもしれないという興味から、実験を実施した。

方法 被験者は3人の中国人女性 (20才)、3人の日本人女性 (20才) である。実験は大連市で、1986年 8月16～24日、午前0時より午前6時まで行われた。測定項目は6個所の皮膚温 (胸、背、上腕、前腕、大腿、下腿)、2個所の衣服内温湿度 (胸、背) である。睡眠中の布団は綿敷布団、綿シャツ、バスタオル、毛布、被験者の着衣はTシャツとトレーニングパンツである。温度の測定はメモリーコーダによった。室温は  $24 \pm 0.25^{\circ}\text{C}$  である。

結果 1) 胸部皮膚温は中国人  $34.6 \sim 35.1^{\circ}\text{C}$ 、日本人  $34.6 \sim 35.7^{\circ}\text{C}$ 、背部皮膚温は中国人  $34.8 \sim 35.1^{\circ}\text{C}$ 、日本人  $35.1 \sim 35.2^{\circ}\text{C}$  と日本人が高い傾向が認められた。2) 前腕、上腕、大腿、下腿は中国人が  $0.25 \sim 0.75^{\circ}\text{C}$  高い傾向があった。このように中国人の皮膚温が四肢部で高く、軀幹部で低い理由について、日常の着衣の違い、および衣服型が皮膚温に与える効果の、我々の研究室の最近の知見をもとに論じたい。